

令和4年度

事業報告書

小松市矢崎町ナ 129 番地 1

社会福祉法人大和善隣館

令和4年度 社会福祉法人大和善隣館『事業報告』

令和4年度における事業報告は、次の通りである。

[1]法人役員構成等

1. 役員構成

理事長 和田 良一	常務理事 広川 保	
評議員	定数7名以上12名以内	(令和5年3月31日現在10名)
理事	定数6名以上10名以内(理事長・常務理事含)	(令和5年3月31日現在9名)
監事	定数2名以上	(令和5年3月31日現在4名)

2. 評議員会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和4年6月16日 開会:13時25分 閉会:14時30分	評議員9名 理事9名 監事4名	議案第5号 令和3年度事業報告 ・計算書類・財産目録の承認・監事監査報告・社会福祉充実残額 議案第6号 令和4年度資金収支補正予算について
令和4年11月24日 開会:16時50分 閉会:17時20分	評議員10名 理事9名 監事4名	議案第7号 令和4年度資金収支補正予算について
令和5年3月16日 開会:16時00分 閉会:17時50分	評議員8名 理事9名 監事4名	議案第1号 定款の一部変更について 議案第2号 令和4年度資金収支補正予算について 議案第3号 令和5年度事業計画について 議案第4号 令和5年度資金収支予算について 議案第5号 松陽こども園庭整備事業について 議案第6号 蓮代寺こども園隣地土地購入計画について 議案第7号 令和5年度資金収支補正予算について 「その他」 ・法人中期計画について ・石川県及び小松市指導監査結果報告

3. 理事会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和4年6月3日 開会:13時30分 閉会:14時40分	理事9名 監事4名	議案第7号 令和3年度事業報告 ・計算書類・財産目録の承認・監事監査報告・社会福祉充実残額 議案第8号 令和4年度資金収支補正予算について 議案第9号 福祉サービス苦情解決第三者委員の選任について 議案第10号 評議員会の招集について
令和4年10月17日 書面決議	理事9名 監事4名	議案第11号 評議員会の招集について
令和4年11月24日 開会:16時00分 閉会:16時40分	理事9名 監事4名	議案第12号 諸規程の一部変更について 議案第13号 令和4年度資金収支補正予算について 「その他」 ・理事長及び常務理事の執行状況報告
令和5年2月13日 書面決議	理事9名 監事4名	議案第1号 評議員会の開催について 「その他」 ・理事長及び常務理事の執行状況報告

<p>令和5年3月16日 開会:14時00分 閉会:15時40分</p>	<p>理事9名 監事4名</p>	<p>議案第2号 諸規程の一部変更について 議案第3号 定款の一部変更について 議案第4号 令和4年度資金収支補正予算について 議案第5号 令和5年度事業計画について 議案第6号 令和5年度資金収支予算について 議案第7号 松陽こども園庭整備事業について 議案第8号 蓮代寺こども園隣地土地購入計画について 議案第9号 令和5年度資金収支補正予算について 「その他」 ・法人中期計画について ・石川県及び小松市指導監査結果報告</p>
--	----------------------	---

4.法人監査

開催年月日	出席数	指摘事項
<p>令和4年5月16日 ～18日 開会:09時00分 閉会:12時00分</p>	<p>監事4名</p>	<p>指摘事項なし</p>

【2】法人本部事務局

「法人名称変更」及び「法人所在地移転」の転換期から2年が経過し、新たな地でこれまで以上に地域・地元に関われる存在になれるよう努め、社会に貢献する法人として未来永劫存続するよう最善を尽くす。

令和3年4月1日にSDGs宣言をした。法人運営上最も目標とすべき6つのゴール(開発目標)に絞り宣言。達成年限である2030年に向け各種取組を実践中である。身近なところでは会議でのペーパーレス化や給食材料の食品ロス削減、また子どもたちや保護者、職員自身が自宅でも取組可能な節水・節電・資源の無駄遣いを無くす等、自らの意識で実践できることから始めることが重要である。我々職員も子どもたちと一緒に学び、楽しみながら実践することが何よりも大切と感じる。家庭においても親子の会話の中で、何かSDGsに触れるきっかけを作れるよう継続的に取組んでいく。

令和5年1月に「法人中期計画」の策定し、3月に公表した。計画期間はSDGs達成年限と同じく2030年までとし、児童の人口推移予測に基づき利用定員の変更や、各種整備事業、今後の施設の増減の検討など、少子化が進行していく中での計画としたため、8年間の中長期の中では、見直しも必要になるかと思うが、今後の運営方針として計画に沿って舵取りを行っていききたい。

自然災害等の緊急事態に遭遇した場合に備えたBCP「事業継続計画」を策定し、令和5年度より運用を開始する。策定するにあたり、施設の設備機器についても再度確認し、施設のハード面についてこれまで以上に詳細に知るきっかけとした。情勢は常に変わるので計画の更新を適時行っていききたい。策定作業中の昨年8月、小松市は降雨災害により甚大な被害を受けた。被災地域である中海こども園では、一早く高台にある中海中学校に避難し事なきを得た。また、万が一津波が発生した場合では、移動が困難な場合は園舎建物の最上階や屋上に避難することが最も有効と考えるが、東日本大震災時の大津波発生時には、状況に応じて小・中学校等、こども園よりも高い建物へ避難することが望まれる。災害は他人事ではなく、いっどこで私たちの身に降りかかるか分からないため、日常の避難訓練等の重要性を再認識し、園児及び職員の安全を最優先と捉えた運営に努めていきたい。

新型コロナウイルス流行より丸3年が経過し、来年度より感染症法上の位置付けが2類相当から5類へ移行する。これでコロナウイルスが無くなるわけではなく、これまで同様、基本的な感染予防対策を取りながら共生していかなければならない。コロナウイルスに振り回される日々を過ごしてきたが、少しずつコロナ禍前の日常に近づきつつあり、これから先、終息に向けて落ち着くことを願いつつ、次年度に希望のバトンを繋ぐ1年となった。

1.施設一覧表

施設名	利用定員及び児童(講座生)数	開設年月日 ()は保育所開設	住所
幼保連携型認定こども園 大和こども園 施設長:池田 巧	240 名	平成 27 年 4 月 1 日 (昭和 19 年 6 月 15 日)	小松市大和町 102 番地
大和こども園分園やぎき乳児保育園 施設長:池田 巧(本園兼務)	29 名	令和 3 年 4 月 1 日	小松市矢崎町ナ 129 番地 1
幼保連携型認定こども園 松陽こども園 施設長:森 都	155 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 17 年 4 月 1 日)	小松市大領中町 1 丁目 171 番地
幼保連携型認定こども園 月津こども園 施設長:荒井 早苗	135 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	小松市月津町め 57 番地
幼保連携型認定こども園 中海こども園 施設長:片桐 真二	85 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市軽海町ノ 16 番地 4
幼保連携型認定こども園 蓮代寺こども園 施設長:堂前 弘美	95 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町に 173 番地
芦城児童クラブ 1 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 17 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
芦城児童クラブ 2 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 22 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
蓮代寺児童クラブ 施設長:竹下 沙知	25 名	平成 31 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町ハ丙 16 番地
大和ぬくもり大学 学長:朝岡 明美 施設長:広川 保	500 名	平成 4 年 7 月 1 日	小松市相生町 11 番地
本部事務局			小松市矢崎町ナ 129 番地 1

2.主な取り組み

①「法人中期計画」

今般「法人中期計画(2030 ビジョン)」を策定し 3 月に公表(理事会、評議員会開催後ホームページ)した。

②BCP「事業継続計画」

社会福祉法人の運用開始期日が令和 6 年 4 月となっていたが、目的の周知と実効性があるものとするため、2 年がかりで策定し令和 5 年 3 月に運用を開始した。現状、一般企業用様式での策定となったが、本年 1 月に保育所等用様式も公表されたので、目的の整合性を含め常に計画の更新を行っていく必要がある。

③職員採用・育成計画

リーダーである主幹保育教諭を筆頭に若手職員を中心にメンバー構成した「リクルートチーム」を立ち上げた。主な活動内容としては、YouTube を活用した動画作成を行い、保育者を志す学生等に興味を持ってもらうよう取り組んだ。自法人の YouTube チャンネルを作成したので、保育教諭だけではなく、給食調理員等職種に応じた動画制作にも今後は取り組んでいきたい。

令和 4 年度からリファラル制度を導入し、計 9 名の採用を実現できた。

④奨学金貸与事業

利用実績はなかった。給付型奨学金制度創設や行政による奨学金も充実してきたが、法人独自の制度なので、継続広報を行ってきたい。

【3】施設関係

1. 幼保連携型認定こども園 大和こども園の経営

昭和 23 年 11 月 1 日・児童福祉法により認可(平成 23 年度より定員 280 名)

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 275 名(内訳は 1 号 15 名/2 号 155 名/3 号 105 名)に減員

平成 28 年 4 月 1 日・大和保育園から「大和こども園」に名称を変更

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 240 名に変更(1 号 15 名, 2 号 120 名, 3 号 105 名)

(1) 事業実績の概要

●教育及び保育事業

めざす子ども像を引き続き「やりたいことにチャレンジする子」とし、法人の保育の基本方針(三つのゼン)を踏まえ、教育・保育課程運用の視点を、安全(安心・信頼)、自然(関わりたくなる環境づくり)、積善(自信・達成感の醸成)として保育を展開した。この教育課程運用の重点は、主体性を生かそうとする保育の拠り所となったもののさらなる日々の保育の充実につなげるため、めざす子どもの像の見直しを検討した。園内の研修では、金城大学短期大学部和泉客員教授を招聘した。招聘した回数は限られたものの、若手の職員の実践に指導・助言をいただいたことにより、OJT と兼ねることができた。3 年未満の経験の少ない若い職員にとっては、自己の課題克服に向けてよい機会となった。しかし、新卒採用職員の退職もあり、1 年目の育成法について課題が残った。

障がいや発達上の課題のある園児への支援では、年間 10 回にわたり小松市発達支援センター等の職員の訪問を要請した。支援会議から個の理解の深まりと具体的な支援の明確化を図ることができ、個の成長を支えることができたものの、保護者と継続的な面談の必要性を感じた。虐待の疑いがある事案は、子ども家庭課や児童相談所と緊密に連絡を取り合い、対処することができた。外国籍の園児に対しては、通訳を配置し、該当する園児へのサポートの他、保護者と園との連絡・調整に努めた。

●子育て支援事業

未就園親子を対象とした地域子育て支援拠点事業は、分園となるやぎき乳児保育園で実施した。子育てに関する相談窓口は、ホームページ上に開設し、相談に応じられるようにした。また、地域に発信する情報誌「ぽかぽか大和」もホームページで公開し、園の様子を伝えられるようにした。

●その他

ノンコンタクトタイムの確保については、試行錯誤しながら取り組みを進めたが、十分とは言えず、今後も工夫しながら、よりよい方法を模索していきたい。感染症への対応では、感染者数に応じ休園、クラス閉鎖等を通し、感染拡大防止に努めた。行事での保護者参加については、参加の分散化と人数制限等を行った。

(2) 月別在園児童数

大和		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	30	8	8	8	9	12	15	19	20	21	23	24	25	192
	1歳児	35	30	31	31	30	31	32	31	31	29	29	29	29	363
	2歳児	40	37	37	36	36	36	36	35	34	35	35	35	35	427
2号認定	3歳児	40	40	40	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	476
	4歳児	40	33	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	35	414
	5歳児	40	31	32	32	32	32	32	31	31	31	32	32	32	380
1号認定	満3歳児	0	0	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	22
	3歳児	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	41
	4歳児	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	49
	5歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		240	194	197	196	196	200	205	206	206	206	209	210	211	2,436

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり	休日保育
令和 3 年度	38	分園で実施	2,905	36	208(法人計)
令和 4 年度	47	分園で実施	2,515	28	201(法人計)

2.幼保連携型認定こども園 松陽こども園の経営

昭和 29 年 4 月 1 日・定員 80 名の認可を受け開設。

平成 17 年 4 月 1 日・より小松市より受託経営開始。

平成 18 年 4 月 1 日・定員 140 名で直接経営開始(平成 25 年度より定員 170 名)

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 170 名(内訳は 1 号 15 名/2 号 80 名/3 号 75 名)

平成 28 年 4 月 1 日・施設名称を「松陽保育園」から「松陽こども園」に変更

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 155 名に変更(1 号 15 名, 2 号 80 名, 3 号 60 名)

(1)事業実績の概要

松陽こども園は「心身ともに健やかな元気な子ども」を教育保育の目標として、子どもたちが安心感と信頼感をもって自発的、主体的に活動に取り組めるより良い環境作りを第一に考え、生きる力の基礎を育んでいく保育を進めてきた。特に幼児期においては自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情や好奇心、思考力、表現力の基礎が培われ自然との関わりを深めることができるように働いた。

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない中、クラス閉鎖や休園措置を取らざるを得ない状況もあったが、子どもたちの育ちを支え続けるために見直しを図りながら保育を継続した。その中で特に令和 4 年度は「テーマ保育」を園全体で取り入れることにした。子どもたち同士が一つの事を深く探求し、協同的な活動が深まるようにと全年齢でテーマに添った保育に取り組み、子どもたちの「共同的な学び」につながるよう、みんなで見守り支える保育の実現に向け全職員で取り組んだ。また、行事に関しては参加人数の制限や時間を短縮し、保育参観、運動会、発表会、クラス懇談会等を年齢別に数日に分けて開催したり、当日までの子どもたちが取り組む様子を動画配信や、写真つきのエピソード記録「ドキュメンテーション」を定期的に配信しながら保育の見える化を図り、保護者とつながりが持てるよう、with コロナ時代の保育の質の向上につなげる。

園庭改修に向けた取り組みとして委員が中心となり、今ある石山を生かしながら大型木製遊具と築山や園庭全体が草花や木々に覆われた自然に近い環境になるよう十分時間をかけ設計につなげた。

発達上課題のある子どもに対して小松市発達支援センターの職員の訪問を要請し、支援会議から理解の深まりと具体的な支援の明確化を図り個別の支援につなげた。また、外国籍の子どもに対しては通訳を配置し園での生活のサポートの他、保護者と園との連絡調整に努め安心して園での生活を送れるようにした。

子育て支援では未就園児親子を対象とし、週 3 日午前 2 時間実施。育児の相談やアドバイス、母親同士が情報交換をしながら安心してくつろげる居場所の提供をする。

(2)月別在園児童数

松陽		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	20	5	8	8	9	10	12	15	15	17	16	15	17	147
	1歳児	20	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	27	315
	2歳児	20	30	30	29	29	28	28	28	27	26	26	24	24	329
2号認定	3歳児	25	16	16	15	15	15	16	16	16	15	15	15	16	186
	4歳児	25	25	24	24	23	23	23	24	23	23	23	22	23	280
	5歳児	30	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
1号認定	満3歳児	0	0	0	0	0	1	1	2	3	3	3	4	4	21
	3歳児	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	69
	4歳児	5	5	5	5	6	6	6	5	5	5	5	6	5	64
	5歳児	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
		155	134	136	135	136	137	140	144	143	143	143	141	143	1,675

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和 3 年度	80	350 組	791	34
令和 4 年度	94	368 組	519	34

3.幼保連携型認定こども園 月津こども園の経営

平成 24 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員 120 名)

平成 26 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育所」から「月津保育園」に変更するとともに、定員 130 名に増員

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 140 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 60 名)に増員

平成 28 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育園」から「月津こども園」に名称変更

平成 29 年 4 月 1 日・定員を 145 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 65 名)に増員

平成 30 年 4 月 1 日・利用定員(1 号 15 名/2 号 70 名/3 号 60 名)の変更

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 135 名に変更(1 号 15 名/2 号 65 名/3 号 55 名)

(1)事業実績の概要

令和 4 年度は、昨年から継続している外部講師による園内研修を重視し、教育・保育方針 3 つのゼンを念頭に置きながら教育・保育を見直す機会となるよう公開保育等を取り入れた研修を行ってきた。さらに行事を始め、日々の保育において 0～5 歳児までの育ちの連続性を職員間で共通理解ができるよう繰り返し話し合った。また、「主体性の教育・保育を考える」という委員会を立ち上げ、どのように進めていくかを委員のメンバーで検討し、全職員へ広げていった。このように教育・保育を継続してきたことにより、職員の意識が変りつつあり、どんな活動においてもできるだけ子どもたちと話し合う時間を持ち、子どもたちとの話し合いの中で活動を広げてきた。2 歳児クラスも後半よりサークルタイムをもうけ、以上児クラスへとつなげている。また、月津こども園の園庭は、保育室からすぐに出られる環境であり、それを活かしての保育を常に心がけてきた。園庭にあった大型遊具(チャレンジキッズ)を老朽化のため今年度、撤去したことによりさらに広くなった園庭でのびのびと遊んでいる。また、園庭に生息する生き物や草花と触れあうことにより試行錯誤を繰り返しながら様々な学びを得ている。その他、電気料の高騰もあり、子どもたちに電気料の見える化となるようグラフを作成し貼り出し、節電の意識を持てるよう SDGs 委員会が働きかけていった。アピール委員会は、情報紙上に保護者への動画配信を行っている「おうちえん」を使って QR コードを添付し、月津こども園をアピールしていった。

さらに栄養士、看護師による活動もそれぞれの専門性を活かして実践することができた。食育活動は、現栄養士の乳児保育の経験より 0.1 歳児への食育活動も取り入れていった。0 歳児が実際に米に触れたり、おにぎりをラップで作ったものに触れたりする体験を行った。5 歳児は恒例のお味見当番に主体的に取り組んできた。味、匂い、栄養源など様々なことに興味を持って学んでいった。さらに人前で発表する力もついていった。毎月のお楽しみ給食も地元の食材を使っての手作りメニューだったり子どもたちの大好きなメニューと一緒に話し合っただけのものも提供したりした。看護師による健康教育も計画的に実施した。今年初めて行った視力検査より目について学んだり、鼻のかみ方をしらせ、鼻について学んだり、プライベートゾーンについてなど映像を使って子どもたちに知らせていった。職員対象に、エピペン研修、AED 研修も行った。AED 研修は消防隊によるもので年長児も参加し園にある AED にも興味を持つようになった。

地域とのつながりにおいては月津校下の結ねつとに参加し、園だより、情報誌を添付したり新入児募集のお知らせなど配信したりした。園長・教頭が月津校下の防災士連絡会に参加し、災害時の協力など求めた。また、月津校下の防災士会会長に、防災の話を 4 歳児対象に行い、大切なことを学ぶことができた。その他、第 2 松寿園と zoom で 2 回交流を持ち、今後は、コロナ以前のような世代間交流へとつなげていきたいと考えている。小学校との連携・接続に関しては、できる範囲で行ってきた。小学校校長との連携はスムーズにとることができ、様々な情報交換を行うことができた。施設評価者でもある小学校校長、地域のピアノ講師両名は、日々の保育や行事などを見学しその都度、意見や感想などいただき今後活かしていけるよう努めてきた。

子育てに不安のある親子に対して在宅育児モデル事業を積極的に勧めたり、マイ保育園対象者に情報紙を配布したり、zoom を利用してコミュニケーションをとったりして子育て支援を行ってきた。10 月頃から園開放も予約制で人数制限をしながら数回行って来た。園開放は子育てに頑張っているお母さんにとっては癒しの場となったようだ。

施設整備では、大型遊具の撤去の他、大きいプールのテント拡張工事、園庭のフェンスの張替工事、令和 6 年度設置予定の太陽光発電の準備等実施した。

(2)月別在園児童数

月津		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	15	2	3	6	6	7	10	12	14	17	18	20	20	135
	1歳児	20	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
	2歳児	20	23	22	20	19	19	18	17	17	17	17	17	15	221
2号 認定	3歳児	15	15	15	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	176
	4歳児	25	23	24	23	23	23	23	24	24	24	24	24	24	283
	5歳児	25	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	239
1号 認定	満3歳児	0	0	1	2	3	3	4	5	5	5	5	5	6	44
	3歳児	5	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	42
	4歳児	5	6	6	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	76
	5歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
		135	113	116	117	117	118	121	123	125	128	129	131	130	1,468

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和3年度	83	0組	756	29
令和4年度	107	27組	423	60

4. 幼保連携型認定こども園 中海こども園の経営

平成30年4月1日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員105名)

幼保連携型認定こども園に移行(1号4名/2号62名/3号39名)、施設名称を「中海こども園」とする

平成31年3月19日・新園舎完成(同年4月20日、落成式)

令和1年11月 ・園歌「にじのかけはし」制定

令和4年4月1日・利用定員を85名に変更(1号15名/2号36名/3号34名)に変更

(1) 事業実績の概要

● 教育・保育事業

「遊びを通して様々なことを学び、生きる力を身につけていく・健康で心豊かな子ども・感性豊かな子ども・思いやりのある優しい子ども・自分で考え進んで行動できる子ども」を教育保育目標として、子どもたちの健やかな成長が図られる環境づくりを心がけた。行事その他の教育保育では、新型コロナウイルス感染症防止のため一定の制約があるなかでも最大限と考えられる内容や方法を工夫して行った。

教育保育の質の向上として、子どもの主体性を尊重し、遊びを通して様々なことを学び、生きる力を身につけていけるよう日々の実践と研修を推進してきた。運動会や表現会では、園児が普段の園生活で興味を持って取り組んでいることについて、子どもたち自身が意見を出して表現していた。参観者からは普段の様子を感じとることができ、自然体で良かったとの感想が得られた。一方で、主体性を尊重した教育保育の考え方が保護者に正しく伝えきれていないことが明らかとなり、今後は伝え方を工夫することが課題である。保育者自身も、どのような場面でどのように子どもを支援するのがよいのか改めて研修することが必要だと感じているところである。

また、異年齢での活動を大切にし、一緒に遊んだり食事をしたりするなど、自然な交流ができるようにしている。年上児は、年少児のクラスを訪れて優しく接することもあり、年少児は年上児にあこがれを抱いて接している。今後は、年間の見通しを明確にするとともに園内外での研修をしながら、異年齢での活動を充実していくことにしている。

8月の水害時は日頃の訓練を生かして避難することができた。ただ、緊急時の情報収集・伝達の課題も明らかになり、貴重な教訓が得られた。今後は、策定したばかりのBCPの職員への浸透とも合わせて、緊急時の対応力を高めたい。

その他の教育保育の充実を支える取組として、職場環境委員が全職員による業務効率化を推進するとともに、連絡帳の電子化などを図った。今年度初めて受審した第三者評価の結果はまだ届いていないが、自己評価をする過程で園の運営について丁寧に振り返ることができ、今後求められる改善のポイントにも気づくことができた。

● 子育て支援事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、園庭開放の回数は多くとれなかったが、参加した親子は喜んでおり、保護者から様々な話を聞くことができた。また、都合等で来園できない家庭には電話による状況把握や園の情報誌の提供を行い、つながりを保つようにした。

(2) 月別在園児童数

中海		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	8	4	4	4	4	4	6	7	7	8	8	8	8	72
	1歳児	11	10	10	10	11	11	11	12	11	11	11	11	11	130
	2歳児	15	9	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	86
2号 認定	3歳児	10	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	113
	4歳児	13	11	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	149
	5歳児	13	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107
1号 認定	満3歳児	0	0	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	26
	3歳児	5	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	43
	4歳児	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	49
	5歳児	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	61
		85	66	66	66	67	67	69	72	71	73	73	73	73	836

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和3年度	58	0組	474	120
令和4年度	54	9組	371	55

5.幼保連携型認定こども園 蓮代寺こども園の経営

平成30年4月1日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始。同時に幼保連携型認定こども園に移行

認可定員120名/利用定員120名(1号15名/2号60名/3号45名) 施設名称を「蓮代寺こども園」とする
令和3年3月18日・新園舎完成(同年5月1日、落成式)

令和3年4月1日・利用定員を105名に変更(内訳は1号15名/2号45名/3号45名)

令和4年4月1日・利用定員を95名に変更(内訳は1号15名/2号38名/3号42名)

(1)事業実績の概要

新園舎1年目の実践を踏まえ、園舎の環境を生かした教育・保育形態をさらに向上させるべく、日々の生活の見直しや行事・活動のあり方の検討を行った。コロナ禍の制限の多い中、子どもたちの安全を最優先に考えて進めた。教育・保育方針“三つのゼン”を柱に、安心できる環境の中で日々の活動が子どもの主体性を育むものであったか、育ちの連続性から見た主体性の育ちはどうであったかなどを、実践記録やドキュメンテーション等を通して園内研修を行ったり、ZOOMでの研修を受け話し合ったりして、質の向上に努めた。

園周辺の四季折々の山の姿や草木や昆虫などに触れることで、その不思議さや美しさ、おもしろさに心動かされるような豊かな自然体験により、環境とのかかわり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして試行錯誤したり創意工夫したりするような環境からの学びを大切に日々の実践を深めた。園の周辺のよもぎを摘んでのおやつ作り、柿の葉寿司作り、“梅仕事”体験など、地域の特性を生かした食育活動、サイエンス活動など様々な領域からの総合的な学びを大切に。年長児が取り組む蓮代寺太鼓は、園児にとっても楽しい活動であり、年長児は自信をもって意欲的に取り組み、年中児・年少児は憧れの活動として年長児の姿を追うことで無理なく継承されてきている。また、動画視聴を通してSDGsを学ぶ「ちきゅうフレンズ」の取り組みは、問題意識を持つきっかけ(ESD)となり、新たな視野を広げることが出来た。

完全給食による温かいご飯の提供や、四季折々の行事食や園外給食での手作り弁当、手作りパン、手作りおやつなど、給食の取り組みは園児および保護者から大変好評で期待も高い。また、地元食材を多く取り入れたり、野菜くずなどをリサイクラーに入れて肥料にしたり、子どもたちが育てた野菜を余すことなく調理して食することなど、昨年度認定を受けた「エコ認定こども園」としての取り組みや、大和善隣館のSDGs宣言等と関連づけた食育活動も教育・保育として園全体で積極的に取り組んだ。

日々の活動の様子を伝えるドキュメンテーションは、可視化の観点からも定着し内容も充実してきたが、記録として園内研修するなど活用の価値も高まっている。また、今年度も日々の活動の姿を録画し、DVDにして年3回保護者に配布し育ちを共有することで、ドキュメンテーションとともに、保護者支援につなげた。

小学校との接続では、3年越しに小学校教諭の園見学を実施することが出来、意見交換により相互理解を深めた。また、年長児は、学校見学、学校紹介のDVD視聴を通して就学への期待を膨らませていった。

地域に向けた子育て支援事業「きらきらぼし」は、コロナ禍の状況により、園庭にて4回開催した。マイ保育園登録事業、マイ保育園地域子育て支援拠点化推進事業は、ニーズに応じて実施し、一時預かり事業は里帰り出産による利用と入園を控えたお子さんのマイ保育園券の利用に限定して行った。その他、情報紙「きらきらぼしだより」の配布や電話による相談事業や子育てにやさしい企業推進協議会の「赤ちゃん駅」の登録など、地域の子育て家庭のニーズに合わせた取り組みに努めた。地域情報紙「スマイル」を年4回、「環境だより」を年3回発行し、各町内に回覧することで園の取り組みを知っていただくよう努めた。令和1年度より始めた高齢者対象の“ふれあい食堂”は令和4年度も開催できず、当初計画していた買い物支援事業と合わせて、5年度の実施を目指し計画を進めた。

看護師2名を配置し、乳児保育への対応、病児保育事業の体調不良児対応型の実施、および保健衛生管理・指導を充実させた。看護師を中心に、基本的な感染防止対策の徹底と、職員と3歳以上の園児のマスク着用を継続し、職員一丸となって感染予防に努めたが、年間を通し、園児及び職員とその家族のコロナ感染が相次ぎ、4月に3日間の休園措置と8月と1月の複数のクラス閉鎖等、感染拡大防止の対応をとることとなった。

「保育士等キャリアアップ研修」含め、ZOOMによる県内外の各種研修への積極的参加や、園内研修やクラスごとの話し合い等、全職員の研修の機会を十分に確保し、職員の資質向上を目指した。また保育士資格取得講習を1名受講した。

(2)主たる整備事業

3月 農地法第3条による隣地農地購入計画(令和5年度土地契約・第3条申請・農園工事の予定)

(3)月別在園児童数

蓮代寺		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	10	5	7	9	10	10	11	12	13	13	13	12	13	128
	1歳児	15	17	17	17	17	18	18	18	18	17	17	17	17	208
	2歳児	17	12	11	11	10	11	11	10	12	12	12	11	11	134
2号 認定	3歳児	12	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	182
	4歳児	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	145
	5歳児	13	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	97
1号 認定	満3歳児	0	0	1	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2	21
	3歳児	5	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46
	4歳児	5	7	8	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	96
	5歳児	5	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	35
		95	84	86	88	89	91	93	93	95	94	94	92	93	1,092

(4)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和3年度	71	6組	141	19
令和4年度	152	4組	228	54

6. 幼保連携型認定こども園 大和こども園分園やざき乳児保育園の経営

令和3年4月1日 大和こども園の分園として新規開設(定員 29名)

(1) 事業実績の概要

● 教育保育事業

教育・保育方針の『三つのゼン』に基づき、教育・保育目標を「心身ともに健やかな子ども」「豊かな感性をもった子ども」「心やさしく思いやりのある子ども」とし、子ども一人一人の思いに寄り添い、優しい雰囲気の中で温かく応答的な関わりを通じて、きめ細やかな保育の実践を心がけた。子どもの発達や興味にあわせてさまざまな玩具を手作りし、子どもが主体的に環境と関わって活動し、充実感や満足感を味わうことができるよう日々の活動をすすめた。

保育者と給食職員が協力しながら、子どもの興味を大切に食育にも取り組んできた。豆に興味を持った時にはさまざまな豆を用意し、そらまめに触れて食べる活動を行ったり、プランターで枝豆を栽培したりして、子どもの関心が広がるよう工夫をしてきた。

地域との関係性においては、散歩時に庭の花を分けていただいたり、地域の方の畑で芋ほりをさせていただいたりして、繋がりが少しずつ広がってきた。

コロナ禍の中、行事の開催は難しかったが、少人数、短時間の保護者参加のもと保育参観や保育参加の機会を設け、保護者とのコミュニケーションをとり信頼関係を築くよう心がけた。また、クラスだより、ホームページ、動画配信、連絡帳を通して保護者に子ども達の様子を伝えた。

SDGsの取り組みとして、天気の良い日に散歩の時に、子ども達と一緒に紙・段ボールを近くのエコステーションに持ち込んだり、牛乳パックやペットボトルなどで子ども達が楽しめる玩具を作ったりした。その他にも、子ども達と一緒にままごと・ブロック・絵本などのコーナーで分けるための仕切りを作った。大きな段ボールの側面に子ども達は水性ペンで思い思いに絵を書き、自分達で作りあげた喜びを感じていた。

園内の研修では、外部講師を招いて勉強会を行い、乳幼児期の心の発達や子どもとの関わり方について学んだ。カンファレンスを通して、職員一人一人の資の向上の土台となる良い機会となった。

令和5年度も引き続き勉強会を行って子どもの育ちの理解に努め、教育・保育の質の向上を目指しチーム力を高めていきたい。

● 子育て支援事業

地域に向けた子育て支援事業「あっぷっぷ」を週2回開催し、大型絵本や紙芝居の読み聞かせ、親子ふれあい遊び、楽器遊び等を実施し、少人数のゆったりした環境で、親子で安心して集える場を提供し、地域の親子の育ちを見守り支援してきた。保護者から離乳食等の栄養相談があった際は、給食職員が相談に応じ、レシピを渡すなど連携しながらサポートをした。

● 地域との連携

地域の方には、毎月の園だより、年2回発行の地域情報誌「ありんこ」を回覧して子どもたちの遊びの様子やSDGsの取り組みについて情報発信を行った。

● その他

職員配置を工夫してノンコタクトタイムを取得し、業務の効率化を図った。

(2) 月別在園児童数

やざき		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	6	2	3	4	6	6	7	8	10	10	12	12	12	92
	1歳児	11	10	10	10	10	11	11	11	10	10	10	11	10	124
	2歳児	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		29	13	14	15	17	18	19	20	21	21	23	24	23	228

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	病児(体調不良児)保育	地域子育て支援拠点	延長保育	一時預かり
令和3年度		167組	0	37
令和4年度	49	308組	55	81

7. 芦城児童クラブ 1・芦城児童クラブ 2 の経営

平成 17 年 4 月 1 日・芦城小学校平成集義室にて開設

平成 22 年 4 月 1 日・「第一」「第二」に分割運営開始

平成 27 年 4 月 1 日・「子ども子育て新制度」施行により小学 6 年生までを事業対象にする。このため定員変更

(第一芦城っ子クラブ定員 45 名/第二芦城っ子クラブ定員 45 名)

平成 27 年 6 月 1 日・小松市意向により施設名を「芦城児童クラブ 1」「芦城児童クラブ 2」に変更

(1) 事業実績の概要

令和 4 年度は児童クラブ 1・2 合計で登録児童数は 149 名となり、支援員 10 名が【子どもたちの自己肯定感を育む】という施設の理念のもと保育にあたった。

令和 4 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、安心して過ごせる生活の場、健やかに遊べる環境作りに努めた。行事では児童の自主性、社会性、創造性を育むことを基本として、特に地域との交流を意識し、学校周辺のゴミ拾いなどのボランティアの他、子どもたちが自分で歩いて近くのお店におやつを買いに行ったり、小松名物の空揚げをおやつに食べたり、地産地消の取り組みとして、五郎島金時を使ったおいもパーティーを行った。

新型コロナウイルス感染症対策に係る放課後児童健全育成事業(特例措置分)の交付金では、ノートパソコン 2 台、iPad2 台、玄関の大型マットの交換、おもちゃ等の殺菌ができる UVC 除菌ライト、折り畳みベッド等を購入した。2 月・3 月にかけてはエアコンの清掃と保育室の床清掃を行った。

令和 4 年度もコドモアプリの定着化により、毎月のお便りの他、殆どのお知らせを配信し、ペーパーレス化による紙代や印刷代のコスト削減ができた。また、利用予定や児童数の管理もスムーズにできた。保護者との連携では、保護者からの問い合わせに対しては、すぐに回答する等、信頼関係の構築に努めた。

また日々の様子をコドモンや HP で伝えたり、アンケートを行い、保育に活かすことができた。希望の保護者に対しては、随時、個人懇談も実施した。

支援員研修は ZOOM を活用し、積極的に研修に参加することができた。クラブ内での勉強会では、気になる子どもへの対応等を、全体で把握、理解し保育に当たることができるよう事例検討会を行った。

また 3 月には、コロナ禍の為にずっと出来なかった、新年度に向けての保護者説明会を開催した。

(2) 月別登録在所児童数

開設日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
平日	17		19		22		13		1		20		20		20		17		16		19		17			201	
土曜日	5		4		4		4		3		4		3		4		2		4		3		4			44	
その他	3		0		0		7		19		0		0		0		3		3		0		5			40	
合計	25		23		26		24		23		24		23		24		22		23		22		26			285	
児童クラブ	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	
児童数	1年生	16	14	15	13	15	15	18	17	13	13	14	16	15	16	15	15	16	16	15	14	15	15	16	16	183	180
	2年生	13	14	10	12	11	14	13	16	12	17	11	13	11	14	11	12	9	14	9	14	9	10	10	15	129	165
	3年生	10	7	7	5	7	5	9	6	9	5	7	5	7	4	7	3	8	3	7	3	7	2	8	3	93	51
	4年生	3	0	1	0	1	0	3	1	5	2	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	20	3
	5年生	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	42	36	33	30	34	34	43	41	39	38	33	34	34	34	34	30	34	33	32	31	32	27	35	34	425	402
うち加配児童	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	23	24	

8.蓮代寺児童クラブの経営

平成 31 年 4 月 1 日・「蓮代寺児童クラブ」を受託運営開始(定員 25 名)

※指定管理者/平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日の 5 年間

(1)事業実績の概要

令和 4 年度は登録児童が 44 名、支援員 4 名が「子どもたちの自己肯定感を育むために、無条件に愛される体験、褒められるという体験、共感される体験、感謝される体験、達成感を得られる体験を」の施設の理念のもと、保育にあたった。令和 3 年度に引き続き、保護者や子どもたちとの信頼関係の構築に力を入れて保育にあたった。

「環境の整備」として引き続き新型コロナウイルス感染症予防の為、遊具などの消毒をこまめに行い、室内の清掃も徹底して行った。また、子どもたちと感染症について話をし、自分で出来る感染症予防として手洗いの大切さを学び、おやつや食事前の手洗いを徹底させた。

「児童の健全育成」として、感染症予防を行いながら、季節に応じた行事を計画し、誕生月の子は好きなケーキを選ぶことが出来る誕生会を行った。クリスマス会やお楽しみ会などの司会進行を 3 年生にお願いしみんなで行事を楽しむことが出来た。

「コミュニケーション力を高める」取組として、おやつ後の読み聞かせを行った。支援員だけではなく、子どもによる読み聞かせも行った。

「支援員の研鑽、研修」では研修会に積極的に参加し、スキルアップを図った。今年度も ZOOM を活用した研修会が多く、コロナ禍でも多くの研修に参加することが出来た。また、支援員同士、些細なことでも報告しあい、全員が同じ目的をもって保育にあたることが出来た。

「保護者との連携」として、コドモンを導入し、保護者からの出欠の連絡や、クラブからのお便りの配付に活用した。保護者とは、お迎え時にクラブでの様子を話し、保護者との連携を図った。

「学校・関係機関との連携」として、学校とは打ち合わせ会や担任の先生との情報交換会の他にこまめに情報交換を行い情報の共有を図った。また、学校の授業参観に参加し学校での子どもたちの様子を見たり、担任の先生にクラブでの子どもたちの様子を見てもらい、学校と共に子どもたちの成長を見守った。3 月には蓮代寺こども園より、新 1 年生のこども園での話を聞き、スムーズな受け入れを行うことが出来た。

3 月には、本江町にある「オリジナークロスジャガード」に社会見学に行き織物の仕組みについて学び、実際にカーテンの生地を作る所を間近で見学し、その後、千木野町のファミリーマートでお買い物体験をし、本江町の集落センターを借りて昼食を取り、本江広場で地域の子どもたちと交流を図った。遊ぶ前には広場のごみ拾いを行い、地域密着の活動を行うことが出来た。

(2) 月別登録在所児数

開設日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	17	19	22	13	1	19	20	20	17	16	19	17	200
土曜日	3	2	2	0	2	2	3	2	2	3	2	2	25
その他	3	0	0	7	19	1	0	0	3	3	0	5	41
合計	23	21	24	20	22	22	23	22	22	22	21	24	266
児童数	1年生	14	15	16	16	15	16	15	15	13	13	13	174
	2年生	8	8	7	7	9	8	8	8	7	7	8	92
	3年生	9	9	8	8	9	7	6	6	5	6	5	82
	4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	31	32	31	32	34	31	29	29	25	26	26	24	350
うち加配児童	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

9.大和ぬくもり大学の経営

昭和 19 年 6 月 15 日設立 昭和 33 年 4 月 1 日社会福祉事業法許可

平成 4 年 7 月 1 日「大和ぬくもり大学」開校

平成 9 年 10 月 小松市芦城センターに移転

令和 1 年 10 月～令和 2 年 6 月 小松市芦城センターリニューアル工事・・・全講座基本休講

令和 2 年 6 月 小松市芦城センターでの事業再開(新型コロナウイルス感染禍での再開となった)

(1)事業実績の概要

大和善隣館は、創設理念を原点として、現在に継承されている。平成 9 年 10 月に芦城センターが建設されると法人本部事務局と共に移転し、小松市が設置した小松市中央老人福祉センターの事業運営を受託し、現在は主として高齢者福祉事業として「大和ぬくもり大学」を開設し生涯学習講座を実施している。

●大和ぬくもり大学

福祉(ささえあい)と教育(まなびあい)を一体としてとらえ、これを統合的、有機的に運用するために、平成 4 年 7 月 1 日に開講した。小松市内在住の 55 歳以上の方を対象に、令和 5 年 3 月末現在、16 講座 3 クラブを開講し、開始状況は次のとおりであった。

	相談事業(件)	講座開催数(回)	講座利用者数(人)
実施計画	12	625	6,957
実施結果	0	604	5,165

令和 4 年度についても、新型コロナウイルス感染状況に応じて休講等措置を執りながらも、令和 3 年度に対して年間開催数+80 回、利用者延べ総数+671 人と利用状況の回復を計れた。

新型コロナウイルス感染禍において、事業実施中の感染防止を第一に、各講座の自主性を重んじながらも、休講措置や個人の自粛を促しながら引き続き講座を維持してきた。令和 5 年 3 月からのマスク着用が個人の判断に委ねられてからも、重症化リスクが高い年齢層の事業の為、マスク着用を推奨してきた。

開催会場の小松市芦城センターの空室状況を踏まえながら、アフターコロナを見据えての新講座・新クラブ開設に取り組んでいきたい。

※令和 5 年 3 月をもって、平成 4 年 7 月の開校時から 30 年間続いた「華道講座」が閉講となった。

【大和ぬくもり大学年間利用者延べ人数】

講座名	回数				利用人数				講座名	回数				利用人数			
	令和3年度		令和4年度		令和3年度		令和4年度			令和3年度		令和4年度		令和3年度		令和4年度	
	実績	予定回数	実績回数	実績回数	実績人数	予定人数	実績人数	実績人数		実績	予定回数	実績回数	実績回数	実績	予定人数	実績人数	
料理	18	22	20	133	176	110	水彩画	20	20	20	99	160	80				
社交ダンス	70	88	85	732	1,056	791	ちいさな水彩画	24	23	21	104	161	95				
俳句	12	11	12	87	99	76	ぬくもりヨガ	16	24	22	130	264	141				
歴史	12	12	12	74	96	99	陶芸	22	22	16	79	110	71				
茶道	12	24	17	123	288	147	リズムダンス	65	71	68	519	710	473				
華道	16	22	22	78	132	93	加賀水引	10	11	11	122	154	143				
書道	24	23	24	225	299	250	合唱クラブ	34	31	33	842	930	776				
詩吟	39	48	46	254	336	257	囲碁クラブ	37	44	48	259	484	364				
歌謡舞踊	33	37	36	176	222	186	歌謡曲クラブ	12	44	43	177	968	672				
パソコン	48	48	48	281	312	341	合計	524	625	604	4,494	6,957	5,165				

【大和ぬくもり大学 令和 4 年度実施行事】

年間行事である卒業式・大学祭は開催せず。

(2)相談事業・・・利用者 0 名

相談はなかった。

令和 4 年度事業報告は以上である。

社会福祉法人大和善隣館

理事長 和田 良一

役員名簿

令和5年3月31日

役員	氏名
理事	荒井 早苗
〃	池田 巧
〃	片桐 真二
〃	竹下 沙知
〃	田中 琴乃
〃	堂前 弘美
〃	広川 保
〃	森 都
〃	和田 良一
監事	飯田 清美
〃	堅田 光恵
〃	高田 眞次
〃	森 和美

役員	氏名
評議員	池田 辰雄
〃	遠州 賢
〃	柿本 佳美
〃	北川 潔
〃	釧崎 隆
〃	出口 春一
〃	中田 眞知子
〃	中山 美保子
〃	西田 頼子
〃	山本 敏明

※五十音順